



別記様式第5号 (第2条関係)

記 録 票

教育長	課長	主幹	課長補佐	係長	係員		
小西	貞盛			奥田	奥田	宮本	坂本
(関係課： )				報告者職名・氏名 課長補佐 浅井田 展彦			
件名 令和5年度第2回教科用図書選定委員会 (小学校用)				方法 <input checked="" type="checkbox"/> 来庁 <input type="checkbox"/> 出張 <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他			
内容 <input checked="" type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 質問 <input type="checkbox"/> (こちらから) 照会 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
令和5年7月26日(水)16時00分～19時30分				場所 大竹市役所4階第2会議室			
出席者	総務学事課課長補佐兼教育指導係長 横峰 浅井田 【採択地区調査員報告者】 11名			相手方	【選定委員】 真鍋和聰 (小方小学校長)、野崎光弘 (学識経験者)、大橋綾子 (学識経験者)、藤高聡子 (玖波小PTA)、浅井達矢 (大竹小PTA)、貞盛倫子 (教育委員会)		
<p>1 はじめに 開会あいさつ (真鍋会長)</p> <p>2 事務局説明 (1) 配布資料の確認 ・令和6年度使用小学校教科用図書採択地区調査研究報告書 ・令和6年度使用小学校教科用図書採択地区調査研究報告書 (要約) ・「選定資料 (小学校用教科用図書)」(広島県教育委員会) ・展示会閲覧者カード (写) 集 ※会議後回収 ・各教科書会社の教科用図書</p> <p>(2) 審議内容の説明 教育委員会への答申書の作成のため、本会議において教科書の実物を確認のうえ、採択地区調査員から報告を受け、教科書採択の観点に基づき、どの教科書を推薦していくのか審議してもらいたい。</p> <p>(3) 注意点 調査研究はそれぞれの教科書の特徴を調べたものであり、調査員個人の意見が影響しないようにするため、調査員への質問の際には「どの教科書が良いと思うか」といった質問は行わないでほしい。</p> <p>3 教科用図書採択地区調査員 (代表者) からの報告及び質疑応答 (1) 報告内容 「令和6年度使用小学校教科用図書採択地区調査研究報告書」の様式1-2及び様式2に基づいて説明</p>							

(2) 質疑応答 (【問】委員の質問、【答】採択地区調査員の答え)

○英語

【問】現在使用している東書では、現場からは書く活動が大変だという声はあるのか。

【答】その通りである。東書は更に書くスペースが多くなっており、ノートのような教科書という印象で、指定された時間内でやるのは難しいという意見があった。

【問】5、6年生は教科化され読み書きに重点が置かれたことを受けて、東書は書く活動を充実させていると思うが、それについてはどう考えるのか。

【答】現在使用していて思うことは、書く活動が多いとそれだけで時間がかかり、他の活動とバランスが取れないことがある。東書は書くことが多くて、例文が少ない。書く活動も大切だが、小学校では覚えて書く必要はなく、やり取りや発表も重視されており、そうした活動も充実したい。

【問】CAN-DOリストは授業を行うに当たって、児童と振り返りをするのに教科書にあった方がいいのか。

【答】必ず掲載する必要はないが、単元ごとに示されていると児童たちにも分かりやすいし、指導する側も説明しやすいので、教科書にあった方が良い。

【問】児童用カードに関する記述があるが、何をもって評価したのか。

【答】外国語が苦手な児童の学習意欲を高めるには、カード等の活用が必要である。枚数だけでなく、教科書との関連性やカラーにする工夫などといった内容も大切になってくる。特に、教出のカードは単元毎の学習とつながっていて、全部使い終わると、一冊の本になるようになっていて、評価が高かった。

【問】他教科との結び付きについての記述があるが、これについての記述がない教科書には他教科との結び付きがあると理解していいのか。

【答】そうである。

【問】4線であることを評価しているが、その理由を説明してほしい。

【答】アルファベットの書き方を教えるときに、線と線の間を「部屋」で表現しているが、4線が教えやすい。また、中学校でも4線で教えている。

○音楽

【問】リコーダーを使い始める3年生のときに丁寧な指導が大切であるが、視覚的な学びやすさについて2者を比較したときの意見を聞かせほしい。

【答】教芸の方がリコーダーの後片付けの仕方まで記載があり、より丁寧に視覚化されている。

【問】指導する順序の分かりやすさという観点で評価が分かれているが、このことについて説明してほしい。

【答】教芸の方は情報量が多く、たくさん学びとることができる長所がある。一方で、教出の方はあっさりとした項目で案内されていて、使い方によっては教出の方が理解しやすい。

【問】教出の「まなびナビ」はねらいが示されていてよいと思うが、振り返りなどが示されていないため悪い評価となっている。このことについて説明してほしい。

【答】教芸でも同様にねらいが示されていることに加えて、単元の最後に必ず振り返りが示されていて、児童たちが主体的に学びやすいようになっている。

【問】 共通事項を示すという点では、いずれも指導しやすいと捉えていいか。

【答】 教芸の共通事項には学年まで示されていて、児童が振り返ったときに、どの学年で学んだかを確認できるため、学習を進めるうえで使いやすい。

#### ○理科

【問】 東書は、字の大きさ、レイアウト、色使い、写真の配列などの視覚支援がよくされていると思ったが、他者と比較してどうか。

【答】 東書と大日本については縦に長くてサイズが大きい。特別支援の観点からすると、目が横に移動する動きが難しいため、縦長の方が見やすい。さらに、サイズを大きくすることで文字を大きくする工夫がある。また、東書は、色使いもオレンジは活動と緑は考えるところという視覚支援の工夫がある。

【問】 東書に、考察という観点から課題として挙げられているが、ここに書かれていること以外にも考察すべきという意味であって、全てがここに書かれているという意味ではないということでしょうか。

【答】 東書は、まとめもしっかり丁寧に書かれていて、児童の考える妨げになっているという意味である。

【問】 台風を扱う内容で、独立単元化されず小単元として取り扱っていることが学図、啓林館、教出の3者では課題として挙げられている。学習指導要領では、内容の取り扱うところで「台風に触れること」となっており、「天気の変化」の中で小単元として台風を取り上げる方が自然かと思うが、なぜ課題としたかを説明していただきたい。

【答】 台風被害には甚大なものもあり、中学校に行っても勉強することから、災害を予防する観点から単元化した方がいいと判断したものである。

【問】 理科の学習の観察や実験では何のためにするのかということはとても大事で、考察・まとめが授業の中でどのように進められるかがポイントになるかと思う。東書のところで考える妨げになるという説明があったが、啓林館では考察・まとめがどうなっているのか。報告書のなかで「対話形式で考察の視点が分かりやすく表現されている。」とあるが、もう少し詳しく説明してもらいたい。

【答】 東書は、ねらいに対して正対するかたちの言葉でまとめられていて、他の4者は、最初のねらいから飛躍した形の考察・まとめとなっている。  
また、啓林館と東書は、振り返りのページは手書き風になっていて分かりやすい。

#### ○図画工作

【問】 開隆堂は、「鑑賞への手立てが比較的少ない印象を受ける。」とあるが、逆に日文の方は鑑賞への手立てについて具体的な長所があるか。

【答】 全ての題材に鑑賞の手立てが示されているところが長所である。

【問】 日文の課題で、「掲載作品数が多いが、少し混雑している印象を受ける。」とあるが、逆に開隆堂は掲載作品数が少ないということか。

【答】 開隆堂は少ないが、二次元コードでたくさんの作品に触れられる工夫がある。

【問】 振り返りの観点での評価について説明をしてほしい。

【答】 振り返りという面ではどちらにもあるが、児童にとって分かり易いことを考えた時

に、開隆堂の方が分かり易い。

#### ○道徳

【問】道徳ノートがあると、それにしぼられて、指導しにくかったり、児童にとっては学習しにくかったりすることはないのか。その都度、ワークシートを作った方がいいのではないか。現場の反応等も含めて聞かせてもらいたい。

【答】道徳ノートがあった方がいいという意見が多い。書きやすいという印象がある。その都度ワークシートを作成することも効果的であるが、手間を減らすことも考えると、道徳ノートを活用しても児童に道徳的な見方をじゅうぶんつけさせることはできると考える。

【問】道徳ノートについては、先生がワークシート等を用意するよりも、最後は書かせて振り返りをさせることが毎時間必要なことなので、ノートの活用が定着しているのだったら、あった方がいいと思う。

いくつかの発行者について、「中心発問として書かれているが、他の基本発問が書かれていない。」と指摘しているが、基本発問があることによって先生たちの授業の進め方が狭められるので、逆に教科書にない方がいいのではないかと思う。これを課題として挙げているということは、基本発問が教科書には必要という判断か。

【答】当然、児童に応じた発問を授業者が考えることは必要だが、選択肢としてあればアレンジができやすいのであった方がいいということである。

#### ○保健

【問】授業時数が限られており、教科書で完結できる方がいいと思うので、記述する箇所  
の豊富さにおいて学研と東書は特徴的である。その視点に立った意見はあるか。

【答】前回に比べて、タブレット端末の活用範囲が広がり、分かりやすくなっている。  
教科書に記述する箇所がないとただ聞いて終わりということになりかねない。特に  
どの部分がということはないが、自分の意見をしっかり述べるのが大事なので、  
記述がある方が主体的な学びや協働的な学びにつなげやすい。グループでの話し合  
いをし、その考え方をもとに調べ学習をする工夫ができるという意見が多くあった。

【問】性の多様性について触れられているのが4者あるが、具体的にはどんな内容か。

【答】前回に比べて性の多様性について触れていることが多い。以前だったら、「体の発  
達」のところで触れ、体の特徴について男らしさ女らしさという表現だったもの  
が、今は体つきには違いができるが、それぞれの思いや考えによっていろいろ違い  
があるので、それを理解していこう、というような配慮がされているのが特徴であ  
る。

ただ、発行者によっては、その記述があまりないところもあるし、記述があるところ  
については、いろいろな考え方に対する配慮がなされていたのが特徴だと思う。  
教科書の中に、いろいろなコーナーを設けて、思いだとか気持ちにいろいろな考え  
方があり、それについてお互いを理解していこうというような表現や工夫があった  
ものがあった。

【問】東書と学研を比較して、学研の方が動画においてどの程度課題があるかについて説  
明してほしい。

【答】学研は、少ないというだけでなく、ただ動画が流れているだけで説明がほとんどな

いものもある。教科書の最後のところは、記述やワークシートであったりするので、児童の分かりやすさという面では、やはり視覚的支援だけでなく、音声で説明もあった方がより分かりやすい。東書の方は、音声的な部分が充実している。

【問】二次元コードと教科書本体の活用のバランスに対する工夫という意味ではどの者も計算されている印象か。

【答】二次元コードについては、長すぎるとただ聞いて終わりになって考える時間がなくなってしまうので、多ければいいというわけでない。説明にあった、自然災害については多い方で、これを1時間で扱うかどうかは別問題として他はちょっと少ない。発行者によっては、1日で1、2ページから3ページ進むが、時間設定で二次元コードでの学習がほとんどないというのもあるので、そういった意味ではやり方もあるが、大体そこはある程度考慮されているのではないかと思う。実技教科でありがちな、動画等を見過ぎて実際の活動ができなかったり、話し合いや考える力を深めることができなかったりという、タブレットに頼りすぎる危険性もあると思うが、そこは指導方法でクリアしていかななくてはいけないのではないかという話が出た。

休憩（見本本の入替）

## ○社会

【問】東書は、今回の歴史編と政治国際編というちょっと特徴的な分冊になっていることについて意見はないか。

【答】分冊になっていることに関しては、非常に好感が高かった。理由は、児童生徒の荷物が多さが社会的問題となっているなかで、教科書を家に持ち帰るときに、少しでも軽いものを持って帰ることができるという意味では、分冊になっていることは利便性が高いという意見が多かった。

【問】児童の学びやすさという点で言うと、東書にも多少はあるが、特に教育出版は、折りこみページが多いと思う。大きくする長所もあるとは思いますが、児童が扱うのに間にたくさんあると指導する先生は大変だろうなと思った。それについての意見はなかったか。

【答】折りこみページについては、特にそれだからといって扱いにくいとか使いやすいという意見はなかった。

【問】「なぜ」の問いがなかなかなくて、だいたい「どのような」という事実を問うようなものがほとんどだったと思う。ある程度思考力・判断力を問うような問いが多い教科書はどれか。

【答】東書だと思う。「どのように」「どのような」もあるが、最初の「つかむ」のところで、なぜそうなのかという単元を貫く問いのようなものが示されていて、それを解決するために次の「調べる」では「どのように」「どのような」という事実を聞いていく。それを調べた後に、今度は「まとめる」のところで、最終に出会った「なぜ」について解決していくというのが具体的なレベルになっているのが東書の特徴である。

また、東書はその「調べる」や「まとめる」のところも、ただ調べる、まとめるだけではなくて、その下に必ず、少し解説がある。社会が苦手な児童も、何をどのように調べていったらいいかについてヒントになることが書いてあることも特徴的だと思う。

【問】学習課題と最後のまとめの整合性という点で、東書と他者との違いに気付いたことはあるか。

【答】そこまでの意見は出なかった。

ただ、資料から考えさせるときに、その資料がうまく関連付けて考えさせるには不十分な教科書はあった。この点についても、東書はしっかりと考えられていると思う。

【問】東書の「つかむ」「調べる」「まとめる」という、単元の流れが、苦手な児童でも学習の仕方が分かって学習しやすく、他者に比べて非常に分かりやすいと感じた。東書の特徴として、その辺りもあるというように捉えていいか。

【答】あると思う。

#### ○地図

【問】単純に色使いについて、意見はあるか。

【答】例えば日本地図でいうと、東書は、ちゃんと海の深さまで色で分けられているが、帝国はそうになってない。なっていない方が、色の違いが出ないので分かりやすいという意見がある。全体像をつかむためには日本とその周りとの位置関係を理解できればいいのだから、情報がある程度制限されている方が分かりやすい。そこを押さえた方がいいのではないかという意見が出ている。

#### ○国語

【問】入門期について質問がある。

まず、東書では、多層指導モデルを今の教科書でも取り入れていて、児童の姿を見ている、1年生が促音、長音、拗音を学ぶ上で定着していると思うが、そのことについて何か意見はあったか。

次に、1年生でも割と早い時期に、生活などで横書きにすることがあるが、東書は1年生の教科書で、「よこにかくとき」というふうに取り上げてあるが、他者はなかったように思う。その必要性について意見はあったか。

【答】入門期の取扱いは3者いずれもある。東書はMIMを活用した指導方法がある点が大きく違っている。

横書きについては、その視点での調査はしていない。

【問】学習指導要領では、ローマ字の指導は3年生では必須だが、4年生でも指導した方がいいのではないかというような意見はあったか。

【答】児童がタブレットを活用するなかで、3年生時だけの指導だけではなく、改めて4年生でも指導があるといいという意見があった。

ローマ字表が、東書と光村には4年生にもあったが、教出には3年生の教科書にしかなかった。

また、タブレット端末を扱っていく上で、頻繁に児童が振り返って立ち返ってそれ

を見ながら学習に取り組めるっていう意味でも、ローマ字表は多い方がよいという意見だった。

【問】東書は学習の流れで進められるようになっていて、単元を貫いて一つ目標があって順にやっていくようになっていっているのに対して、光村は練習が最初にあって、それを基にして本文の読みを深めていく構造になっている。大きくやり方が違う印象を受けたが、調査のなかで授業を進める上でやりやすいとか、児童の力をつける上ではこちらがいいといった意見はあったか。

【答】学年の最初の説明文で、練習の問題が先にあってその後にその学年で学習させたいことと教材が載っている。その流れは光村がいいという意見があった。

全体的な単元の学習の流れを考えたときに、教科書の初めの導入のページのところで、つけたい言葉の力が明記されていて、その最初の教材文を読む前に学習の流れが具体的に示されて、「こういうふうに学習を進めていくんだな。」「過去はこういう学習したんだな。」ということ児童がきちんと把握した上で、教材文に入っていく、教材文を読み終えた後にどんなふうに考えていくのかという具体が示されているのが、東書であった。そういう全体的な単元の流れは、東書がいいという意見になった。

【問】光村の「問いをもとう」のところが課題として挙げられているが、そんなに自らの視点で問いを持ちにくいようには思えないし、東書の方も振り返るところで似たような表現があるので、特に課題とは言えないのではないか。

【答】光村は振り返るところで、このときのこの登場人物がどんなところでどんなことを考えたかといった、教材に沿った振り返りになっているのに対して、東書と教出は、どんな物語や説明文を読んでも考えられるような問いが設定されている。したがって、光村だと、題材に沿った問いが示されているため、そこに狭められてしまうという印象があるが、東書や教出は、物語や説明文を読む上での振り返る視点が示されているため、児童がそれぞれの発想で振り返ったり、問いを持ったりすることができるのではないかと考えた。

#### ○書写

【問】光村で課題としている、筆圧の指導は横画や縦画より「はらい」が最初にあった方がいいということか。

【答】その通りである。東書や教出は「はらい」が最初にあるが、光村だけが後になっている。

【問】3年生から始まる毛筆の指導には、二次元コードを使った動画等が効果的に扱えると思うがどうか。

【答】どこの発行者も、実際書いている様子の動画などが二次元コードを読み取れば出てくるようになっている。なかでも東書は、「みつけよう」の段階で二次元コードを使った動画の中で課題が見つけれられるような工夫がされていてよいという意見であった。

【問】以前は、国語と書写で発行者が異なっていたときに、新出漢字の順番が違って指導がしにくいということがあった。同じ方が望ましいのではないかとということで今は一緒になっていると思うが、何か意見は出たか。

【答】同じ発行者の方が書写の中で国語の教科書の中身の教材を扱っている部分があるのか、繋がっている方が学習に取り組みやすいという意見が出た。

#### ○算数

【問】学図では6年生に、他の5者では1年生の導入時についている薄い冊子について、それぞれ長所として挙げてあるが、薄いものを教科書として扱うことについて、あった方がいいとか、むしろちゃんと教科書として扱った方がいいとか、何か意見があったか。

【答】1年生については、他の教科も含めて大きい教科書を持つてくることを考えると、まず算数は「数字」の部分をその薄いもので学習できるので、薄いものがあることに対して肯定的な意見の方が多かった。

【問】啓林館で、組み合わせと順列の順番が逆という点が課題として挙げられているが、同様に、5年生で学習する三角形と平行四辺形の面積についても、啓林館だけが三角形が先になっている。このことについては意見があったか。

【答】実は調査員の中でも意見が割れたところである。

中学校の教員経験者からすると、三角形の面積が基準であるため、三角形が先にあっていいのではないかという意見だった。しかし、小学校でずっと教えている先生は、半分になっていない四角形の方が面積や形としてもとらえやすいため、学びやすいのではないかという意見であった。調査員の話し合いの中では、どちらかというとなら四角形があってその後三角形の方が児童の基礎・基本の定着や理解は進むのではないかということになった。

【問】東書の、「資料の整理」「グラフや表」が同一単元になっているという課題について、見てみると確かにちょっと無理があるように思った。このあたりは、やっぱり分けた方がいいという意見になったのか。課題のある児童にとっては、これらがいっぺんに並ぶとなると、ちょっと難しいという捉えでいいか。

【答】その通りである。流れ的にも厳しいという意見になった。

【問】児童の思考の流れに沿った学びやすい教科書がいいというのはその通りだと思った。児童にとって学びやすさというのは、教員にとっては教えやすさにつながるというところで、そういう意味では啓林館が、教員の裁量に任せられる点が長所でもあり、若手教職員にとっては不親切ということになっているが、それはどの程度か。

【答】啓林館は、問いとして説明しなさいとか、考えましようとかという、思考・判断のあたりで止まっている。したがって、個別最適化にも、協働的な学びで話し合いの方にもっていくこともできるものだと思う。経験がある教員にとってはとてもやりやすく、いろいろ試しやすいというか、形を作りやすい教科書であると思う。

一方で学図は、かなり細かい指示が出ていて、それを全部やるとなるとおそらく時間的にも厳しいし、教師側で児童の思考の流れをちょっと変えたいというような場合でも、その間があるから、逆に授業作りに苦勞するのではないかと思う。若い先生にとっては初めて算数を教える場面なので、どちらかというとなら、経験がある先生にいろいろ助けていただきながら、いろいろ試すことができる教科書で力をつけてもらいたいということで、長所とすることとなった。



## ○家庭

【問】開隆堂の単元名にカタカナが多く違和感があるが、意見はないか。

【答】特にはなかったが、東書は言葉を大事にしているという印象がある。一見、開隆堂のソーイングやクッキングなど、飛びつきそうになるが、教科書の最初にも「私がつくるみんなでつくる明日をつくる新しい家庭」とあるように、東書は心がこもっている感じがするという話はした。

【問】単元数が、東書が5年で8、6年が7、開隆堂が5年で11、6年が9ということで、ちょっと開隆堂の方が多い。多いとそれだけ指導が大変になる印象を受けるが、そのあたりは何か意見があるか。

【答】大きく言って、基礎・基本の開隆堂に対して、発展的で、主体的な学びが期待できる東書というふうに捉えている。細かく区切って、基礎・基本をやることも必要だが、大きな区切りで、発展的に、児童に合う題材を提供できるという点に東書に特徴がある。

【問】教科書に左利きの場合が載るような時代になったのだという感想を持った。多様性に対応していることを感じた。

短時間でとらえるには教科書で確認できる方がいいという意味では、切り方や縫い方の写真をみると、基礎・基本の技術的なことを視覚的にはっきりと示しているのは開隆堂だと思うが、二次元コードについての意見はあったか。

【答】二次元コードの情報量とクオリティでいうと、東書が良かった。

## ○生活

【問】生活科は座学ではなく児童の活動が中心になる教科なので、児童の活動を支えるものが理想であると思う。東書と啓林館については、長所だけを挙げているが、中でも一番の良さはどこか。

【答】東書については、これまでも使用していても不便さはなく、今回も特に問題ないという印象である。特に、二次元コードは工夫されていると思う。例えば、指でタッチするとその木の名前が出てきたり、児童たちがやってはいけない事柄をタッチして当てたりするようなクイズ形式にするなどの工夫に他者にはない特徴がある。啓林館については、構成としては「わくわく・いきいき・ぐんぐん」という3段階構成で分かりやすいし、大きな課題もないところがいいという意見があった。

【問】3年生の社会科や理科との接続という意味で、自然科学や社会科学の科学的視点を意識した教科書という特徴があるものがあれば教えてほしい。

【答】啓林館の2年生が使用する下巻の巻末あたりに「3年生へのステップブック」があり、社会科学や自然科学への接続を意識していると感じたところがあった。

## 4 事務局説明

本日の調査研究報告を受け、答申書作成のため、8月3日木曜日開催予定の第3回教科用図書選定委員会において、各委員から推薦する教科用図書と選定する理由を示してもらいたい。

なお、調査報告書などの採択に関係する書類や書籍は、次回終了後に全て回収させていただきます。

5 閉会あいさつ（総務学事課長）

※配布資料のうち、展示会閲覧者カード（写）集は会議後、回収した。